

6/3 月曜

# 論説

2022-6-3

池田文彦田畠の分配政策が大き  
く進展した。「新しい資本主義」  
の計画的経済運営に意図が伺つか  
ねない税制改進議が四五三になっ  
た。格差選定と並進した内閣は投  
げ連携で実現されたと見受けた。

政府が五月末に公表した案は計  
画案だが、株式などの保有者が税  
制改進を受ける「資産所得控  
除法」(同)をめぐる税制改進を  
増やし、「なま」として掲げられ  
た。約一千兆円に上る税制改進を  
投資に回かわせるのが狙った。

首相は五月上旬に外遊先のロンドンの金融街で発表し、「このブリ  
トンの金塊街で発表し」と語  
えたが、会場の反応は寂しく金融市  
場にも影響を及ぼさなかった。

国内の個人株主の報酬は全体の  
11・2%しかなか、それより上級  
層的上流層のおのれの問題である。  
経済市場を代表する大半の国民  
には感觸がなく、わずかな金持が  
だけを意識したから、日本国外の  
資金を呼び込む」と回答。無理で  
はないか。

一方、昨年の税制改進議で分  
配政策の柱として主張した金融所  
得課税は与党が昨年まとめた税制  
改正大綱で「検討構造」となり  
た。現時点では実現のとは立つ  
てしない。投資で儲け、富裕層への  
課税強化という見は横であり、失  
望感はないがいい。

首相は税制改進議で「所得倍増」  
も掲げた。高齢成長期に池田寅人  
首相が打ち出した政策の現代版で  
ある。だが五度の衆院内閣審議會  
で首相は邊境時期について「税額  
を認めていない」と後退した。

地方の「シジタル田舎都市国家構  
想」も、大平正芳首相が一九七九  
年に脱いた「田園都市国家構想」  
に着想を得たのだが、  
池田、大平両氏は首相が率いる  
自民党宏池派(源・岸田派)の大  
先輩である。  
首相は税制改進の政策構想を打  
ち出した後、簡単と認識させる傾  
向がある。「」の感覚が「新しい資  
本主義」の分からぬ点に疑惑さ  
れてくる。

全国で一ヶ所の開拓する者  
と、半端な開拓が年々に実施したか  
か走る車上での運送は「不思議  
の世界」を見つめ因」「増加  
の着いた財政資源を求めてい  
る。